

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

三陸復興

第73号

平成26年10月15日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つなごろう」を大切にしていきたいと思っております。

季節を告げる紅葉も山から里に広がり、岩手の四季を感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の明るい今を紹介します。

災害公営住宅完成！入居が始まりました

陸前高田市

東日本大震災津波で、県内で最も大きな被害を受けた陸前高田市で市内初となる災害公営住宅が完成。10月1日（水）から入居が始まりました。

入居が始まったのは、下和野（しもわの）団地で、津波が浸水した地域を海拔12メートルまでかさ上げして整備されたもの。鉄筋コンクリート5階～7階建ての2棟からなり、住民同士の交流が図られるように、渡り廊下でつながっています。

間取りは1DKから3DKの3タイプのほか、車椅子対応の部屋など120戸。南棟6階には、災害時に約100人が避難できる集会場を設けています。

東日本大震災津波発災から3年半余り。仮設住宅で暮らしていた人たちが、様々な思いを胸に、新しい生活に期待を寄せていました。

陸前高田市内では、12カ所で、約1,000戸の災害公営住宅が整備される予定です。



完成した災害公営住宅下和野団地



入居が進む災害公営住宅



災害公営住宅屋上から見た陸前高田市

平成26年【第3回】「いわて復興ウォッチャー調査」の結果を公表しました

岩手県では、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

これは被災地域に居住又は就労している方々を対象に、3ヶ月に1回実施するものです。

今回は、平成26年第3回目（平成26年8月実施）の調査結果から、主なデータを紹介します。

被災者の生活の回復に対する実感

「回復」又は「やや回復」：55.3%
（前回調査：55.8%）

- ・前回調査とほぼ同水準。沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった（沿岸北部51.2%、沿岸南部43.8%）。
- ・新築や公営住宅への転居が増えたという前向きな声がある一方、仮設住宅での生活の長期化による精神的な疲弊、住宅新築の資金繰りを不安視する声も見られた。

地域経済の回復に対する実感

「回復」又は「やや回復」：51.9%
（前回調査：55.9%）

- ・前回調査と比べ4.0ポイント下回った。
- ・大型店の進出による雇用・消費拡大への期待や水産業の好調を前向きに評価する声がある一方、魚価の低迷や復興工事の完了後を懸念する声も見られた。

災害に強い安全なまちづくりに対する実感

「達成」又は「やや達成」：25.4%
（前回調査：23.3%）

- ・前回調査と比べ2.1ポイント上回った。
- ・防潮堤工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、防災意識の希薄化を懸念する声も見られた。

詳しくは [平成26年【第3回】「いわて復興ウォッチャー調査」](#)

検索



特設 web サイトで動画を公開！ いわて復興人

「地元の底力」と国内外からのご支援という「つなごろう」の力で復興に取り組んでいます。「未来の岩手を創りたい！」「復興の役に立ちたい！」ひたむきに、そして熱い思いで取り組む「いわて復興人」。復興の本番を迎える岩手の未来を創る方々を動画で発信します。

<http://www.pref.iwate.jp/kouchoukouhou/028674.html>



AKB48 岩手公演！知事・副知事より復興支援に対する感謝

盛岡市

9月29日（月）、30日（火）の2日間にわたって、アイドルグループAKB48の全国ツアー公演が岩手県民会館で行われました。これを機として、達増知事と千葉副知事は会場を訪問し、彼女たちのこれまでの復興支援活動に対し、謝意を表明しました。

AKB48及び姉妹グループは、東日本大震災発生直後の3月24日から「誰かのために」プロジェクトを立ち上げ、義援金や募金の寄付、マイクロバスの贈呈や毎月の被災地訪問など、今日に至るまで様々な支援活動を展開してきました。

知事は「AKB48及び姉妹グループの皆様には、これまで復興支援活動に取り組んでいただきありがとうございます。」と謝辞を述べました。

これに対して、チームKのリーダー横山由依さんは「これからも被災地訪問など、皆様を応援して参りたいと思います。」と語り、今後の支援活動にも意欲をみせてくれました。

コンサートも大盛況のうちに終わり、彼女たちの今後の活躍にますます期待が集まります。



チームKのメンバーと達増知事（中央右）千葉副知事（中央左）



リーダーの横山さんに花束と希望郷いわて国体のマスコット「そばっち」のぬいぐるみを贈呈

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第27回目は、早川輝さんを紹介します。



ユースみやっこベース
代表理事 早川輝
(はやかわ あきら)さん



早川さんからのひと言：
高校生・若者が主体的に
行動する元気な街に！

毎月1回行っている高校生サミットでの話し合いやワークショップ、ディベートといった学生同士の交流を通して「高校生や若者が参加出来るまちづくりが重要」と考えています。

現在、高校生主体のプロジェクトは「観光」「商店街」「交流」「雑貨などのハンドメイドの販売」の4つ。約20名の高校生が参加しています。

「若者たちがこういう活動に携わることで、将来、宮古市や地域を支えていく人になっていくだろうと感じています。これからも宮古市のまちづくりのために、地元の高校生に関わってほしいですし、活動の輪を広げていきたい。それをサポートするのが大人の仕事だと思います。」と若者が参加するまちづくりを目指します。

復興に向けて、持続的な活動を

「思い描く復興の形は人それぞれ異なり、答えがなく終わりが無いようなものだと思います。ひとりひとりが自分の思う復興に向けて、持続的な活動をしていくことが必要だと思います。」と宮古市の復興について語ってくれました。

PROFILE

福岡県北九州市出身

大学卒業後、2年間オーストラリアで過ごす。

帰国後、東日本大震災津波が発災。自分に何か手伝えることはないかと考え、平成23年6月に宮古市を訪れ、平成23年9月より同市に移住し、ボランティアセンターの運営に携わる。

平成25年2月に「ユースみやっこベース」を設立、現在に至る。

高校生が参加出来るまちづくりを

高校生を対象に、復興にむけた活動やボランティア活動に関わってもらうための場づくり、きっかけづくりをサポートしている早川さん。「宮古で育つ」をコンセプトに「地元宮古を育てていく主体になってほしい」と、地元の高校生への想いを語ります。

岩手県の被害状況

平成26年8月31日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,672名 行方不明者：1,132名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 25,716棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年9月30日現在

- ▶義援金受付状況 約181億8,213万円（89,968件）
- ▶寄付金受付状況 約195億7,366万円（6,965件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約69億9,390万円（14,134件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第73号 平成26年10月15日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス